

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

庚 申 山－皇海山を目の当たりに－

庚 申 山（馬ノ背から）



5月上旬、足尾・庚申山（1901㍎）に出かけた。南総里見八犬伝で有名な奇岩、怪石の山である。

前日、わたらせ渓谷鉄道がたどる新緑の世界に目を洗われた。通洞駅で宿の車に迎えられ、銀山平の国民宿舎「かじか荘」に落ち着く。久しぶりに会った仲間と例によって夜遅くまで痛飲。



翌朝5時出発。1時間程の林道歩きの後、一ノ鳥居から山道に入る。雑木林の中、水面沢に沿った緩やかな登り。

足元のそこここにエイザンスミレが姿を見せる。文久三年の銘のある百丁目の石柱の辺りから登りは急になり、鏡岩、夫婦蛙岩、仁王門、大忍坊、二ノ鳥居と過ぎて、7時半庚申山荘に着いた。小屋の背面にビョウブのようにそそり立つ庚申山の岩壁が登高意欲をそそる。そこで30分の朝食休憩。8時出発。



小屋背面の岩壁を巻くように登る。スリル満点のハシゴ登りやクサリ場が

数回続き、一ノ門で雪解け水が豪快に流れ落ちる滝の裏をシブキにビッショリと濡れなが



ら回り込み、やっと岩場の上に出た。後はコメツガ林の中の雪道の緩やかな登りで9時半、庚申山頂に到着した。何の変哲もないコメツガの木立の中の小平地だが、1892㍎と1901㍎の標柱が並んで立っているのが面白い。

更に林の中を5分程進んだところに展望台がある。皇海山が真っ正面に

皇海山（展望台から）



堂々と立ちのぼる。皇海山の左には袈裟丸の連峰、右には日光白根や男体山かなたには至仏山が白く輝いて見えた。展望台の足元から皇海山頂にかけては、鋸山1

鋸山（展望台から）



1峰の起伏がおどろおどろしく連なる。規模こそ違うが、ヨーロッパアルプスにも匹敵する壮絶な眺めである。

名残は尽きないが、展望タイムは15分程で切り上げて、下山の途に就い

た。今朝の経路を逆にたどり、途中庚申七滝を見物したりして、午後２時「かじか荘」帰着。疲れた身体に、入浴後のビールはこたえた。

